

実り豊かな生活文化都市

2021
(令和3年)



広報

ちゅうおう

7

No.185

ふるさとを舞う

光のキセキ

特集 きれいな川を次世代に
特集 地域活性化商品券“心”チケット(シンチケ)を配布します！
特集 国民健康保険・後期高齢者医療に加入しているみなさんへ
特集 総合健診について

豊富地区のホテルの様子

きれいな川を 次世代に

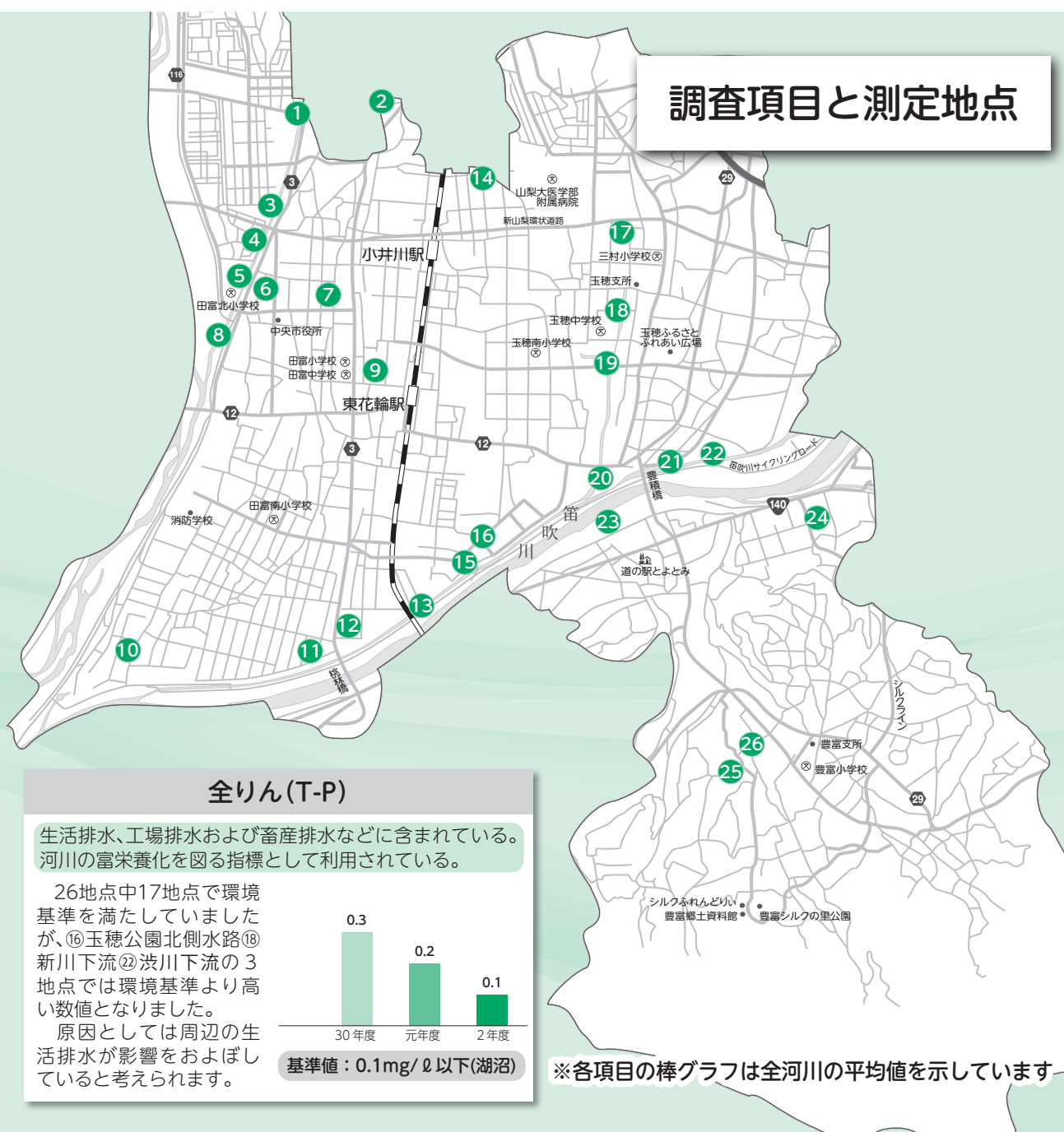
↓問合せ 市民環境課

☎274-8543

中央市では「快適で健やかに暮らせる生活文化都市」という環境像を掲げています。この環境像を実現するために、中央市環境基本計画では基本施策の一つとして、水質汚濁の防止に取り組んでおり、「水質汚濁物質の排出抑制対策の推進」と「生活排水対策の推進」を行っています。

「生活排水対策の推進」として、市内を流れる小河川の水質調査を毎年1回行い、経年変化を観測しています。前年度は、令和2年9月から令和3年2月にかけて調査を行いました。測定地点は、田富地区13地点、玉穂地区9地点、豊富地区4地点の計26地点です。

調査項目と測定地点

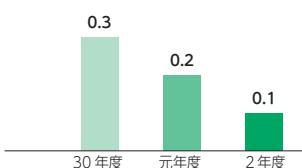


全りん(T-P)

生活排水、工場排水および畜産排水などに含まれている。河川の富栄養化を図る指標として利用されている。

26地点中17地点で環境基準を満たしていましたが、⑩玉穂公園北側水路⑮新川下流⑯波川下流の3地点では環境基準より高い数値となりました。

原因としては周辺の生活排水が影響をおよぼしていると考えられます。



基準値：0.1mg/l以下(湖沼)

※各項目の棒グラフは全河川の平均値を示しています

水質調査からわかること

前年の結果と比較して、有機物汚染が進んだ河川と改善した河川が混在し、例年汚濁が比較的進んでいた河川では、改善が多く見受けられました。総合的には、例年の結果と比較しても大きな変化はなく、概ね良好な数値となり、現状では大きな問題となりそうな点は見受けられません。しかしながら、環境基準をすべて満たしている地点はなく、特に大腸菌群数は25地点で環境基準より高い数値となりました。これは不適切な生活排水の流入が大きな原因の一つであると考えられますが、自然界に普遍的に存在する種類の大腸菌群数も多いようで、本来の目的と調査結果が必ずしも合致していないことが実情です。

また、山梨県が行っている公共用水域調査による水質調査結果と比較しても、市内の河川の汚濁が特別に進んでいるわけではないといえます。

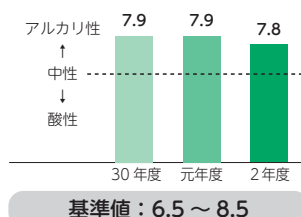
なお、市内の河川はいずれ釜無川や笛吹川といった富士川水系に流れ込むため、市内の河川の水質保全を行うことは富士川水系下流域の水質保全の一助にもなると考えられます。

水素イオン濃度(pH)

工場排水などの塩類に影響を受ける水の酸性・アルカリ性を示す指標。水稲の生育には中性(7.0)が適している。

特殊な工場排水などの影響で著しく変動することもあります。

今回の調査では、⑤リバーサイド外周路水路下流⑬清川下流でアルカリ性を示す数値でしたが、全体的には中性に近く水稲に適した濃度でした。

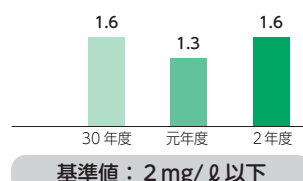


生物化学的酸素要求量(BOD)

水中の微生物によって有機性物質が酸化されるとき酸素の量。数値が高いほど水が汚れている。

今回の調査では、①常永川上流⑫古道川下流⑯新川下流⑳神明川下流㉑渋川下流の5地点で環境基準より高い数値となりました。

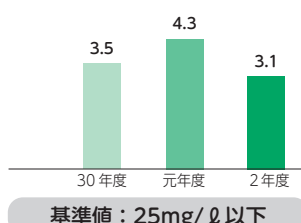
街中を流下する河川が多く、生活雑排水の影響が懸念されます。



浮遊物質(SS)

水の濁りの原因となる粒径2mm以下の不溶解性物質の量。数値が高いほど水が汚れている。

今回の調査も例年同様に安定した数値で透明度が保たれており、良好な環境であるといえます。

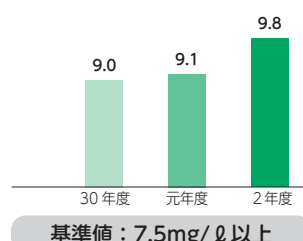


溶存酸素量(DO)

水中に溶け込んでいる酸素量。河川での自浄作用には不可欠なもので、数値が小さいほど水質汚濁が進んでいる。

今回の調査では、すべての地点で環境基準を満たしており、酸欠状態の河川はありませんでした。

なお、水量や流れの速さなどが原因で、川底に汚泥が蓄積されやすい環境になると、酸素量が少なくなる場合があります。

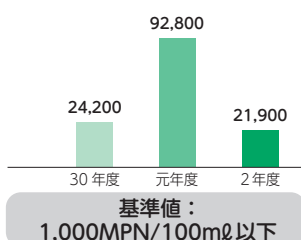


大腸菌群数

人や家畜のし尿による汚染度の高さを示す指標。数値が高いほど水が汚れている。

今回の調査では、㉔豊富地区1用水路のみ環境基準を満たしていましたが、ほかの地点は環境基準より高い数値となりました。

原因として、家庭雑排水および浄化槽の維持管理不備による汚水放流が要因に挙げられます。

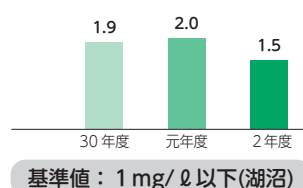


全窒素(T-N)

数値が高いと稲が倒れたり米質の変化を生じやすくなる。

26地点中18地点で環境基準を満たしておらず、㉔豊富地区1用水路ではほかの地点より若干高い数値となりました。

なお、山梨県公共用水域調査結果と比較すると、同程度以下の数値となりました。

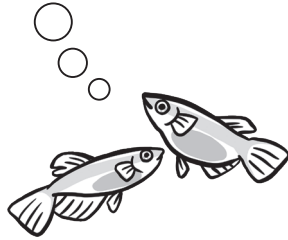


市民一人ひとりができること

私たちの住むまちの河川で毎年行う水質調査の結果を知り、河川への環境負荷の低減に関する取り組みをしましょう。

公共下水道や農業集落排水に接続可能な地域以外では、設置済みの浄化槽の維持管理を適切に行うなど、今後も私たち一人ひとりが水質保全の意識を持ち、私たちの生活が環境を破壊しないよう心がけ、よりよいまちづくりを目指していきましょう。

下の表は測定地点ごとの調査結果です。
近所にある河川はどうでしょうか。
2・3ページの地図や調査項目と一緒に確認してみてください。



令和2年度河川水質調査結果

調査地点	水素イオン 濃度	生物化学的 酸素要求量 (mg/ℓ)	浮遊物質 量 (mg/ℓ)	溶存酸素量 (mg/ℓ)	大腸菌群数 (MPN/100mℓ)	全窒素 (mg/ℓ)	全りん (mg/ℓ)
①常永川上流	7.5	3.6	1	9	7,900	1.5	0.094
②清川上流	7.3	1.3	1未満	7.2	4,900	1.3	0.046
③新川下流	7.6	1.4	1	8.8	79,000	1.7	0.099
④ペディ川下流	7.7	1.4	1未満	8.9	3,300	0.83	0.032
⑤リバーサイド外周路水路下流	8.6	1.4	1	6.4	3,300	1.2	0.18
⑥臼井排水路上流	7.3	1.2	1未満	9.1	3,300	0.93	0.085
⑦宇坪川上流	7.3	1.1	1未満	10	13,000	0.91	0.043
⑧常永川下流	7.9	1.4	4	9.2	4,900	1.2	0.076
⑨古道川上流	7.9	1.3	8	9.5	49,000	1.2	0.082
⑩今福排水下流	8.3	1.3	1	13	3,300	0.84	0.11
⑪宇坪川下流	8.3	1.6	3	11	3,300	1	0.096
⑫古道川下流	7.8	2.6	2	9	33,000	1.2	0.23
⑬清川下流	8.8	1.6	2	14	13,000	1	0.082
⑭東花輪川上流	7.6	1.3	1	11	3,300	1.3	0.038
⑮東花輪川下流	8.1	1.8	4	13	13,000	1.1	0.073
⑯玉穂公園北側水路	7.9	1.7	3	9	79,000	0.91	0.6
⑰山王川上流	7.8	1.3	1未満	10	13,000	1.2	0.095
⑱新川下流	7.7	2.5	1	9	49,000	2.4	0.36
⑲山王川中流	7.7	1.1	4	10	13,000	1.2	0.14
⑳山王川下流	7.8	0.8	6	12	13,000	1.2	0.1
㉑神明川下流	7.7	2.3	8	10	79,000	1.2	0.077
㉒渋川下流	7.6	2.3	21	8.3	33,000	2.2	0.47
㉓豊富地区2用水路	7.4	1.7	1	8.1	33,000	3.4	0.21
㉔豊富地区1用水路	7.5	0.6	1未満	8.4	790	5.6	0.14
㉕大門川	7.7	0.9	1	10	13,000	1.6	0.045
㉖仲川	7.7	1	1未満	10	4,900	1	0.026
環境庁告示水質汚濁に係る 環境基準	6.5～8.5 (河川類型A)	2以下 (河川類型A)	25以下 (河川類型A)	7.5以上 (河川類型A)	1,000以下 (河川類型A)	1以下 (湖沼)	0.1以下 (湖沼)

※「全窒素」「全りん」については、河川における基準値は設定されていないので、湖沼の環境基準を掲載しています。